



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新横浜三丁目新築計画	階数	地上14階 地下1階
建設地	横浜市港北区新横浜三丁目7番8、7番9	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	963 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2023年9月9日
敷地面積	1,371 m ²	作成者	浅野 智之
建築面積	950 m ²	確認日	2023年9月9日
延床面積	13,155 m ²	確認者	浅野 智之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 ZEB orientedを実現する環境配慮型ハイグレードオフィス。前面道路から建物を7mセットバックさせ緑豊かな公開空を整備した。ファサードのカーテンウォールには自然換気装置を組み込み、中間期のエネルギー消費を削減するとともにBCP対策に寄与する。		その他 積極的に屋上を緑化し、公開空を保水性・浸透性舗装とすることで、ヒートアイランド対策に寄与する。
Q1 室内環境 Low-Eガラスと高断熱化により外皮熱負荷を抑制した。	Q2 サービス性能 屋上には建物利用者のリフレッシュスペースとなる眺望テラスを計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 公開空地にベンチやカウンターを計画し地域の憩いの場を創出する。
LR1 エネルギー 高効率機器の導入、LED照明の採用、空調・照明エリアゾーニングによりエネルギー消費を削減した。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具、リサイクル資材を採用した。	LR3 敷地外環境 雨水貯留槽、屋上緑化システム、外構の雨水貯留浸透基盤による雨水流出抑制を行った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



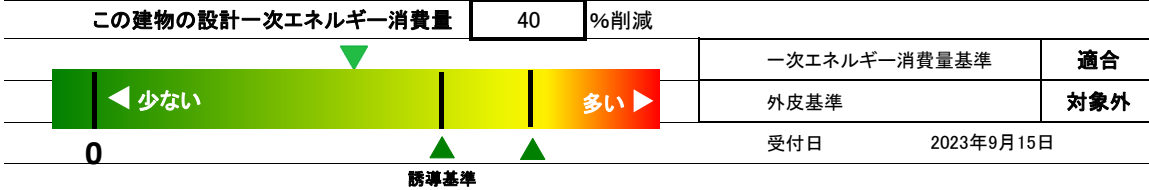
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)新横浜新築計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

高効率機器、LED照明の採用
エネルギーの見える化設備の導入

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

空調エリアのゾーニング設定、冷房暖房切替、明るさセンサーの導入
内装材はすべてF☆☆☆☆

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

天井高さ2.8mを確保、機能性・メンテナンス性に配慮した内装材の選定
リフレッシュスペースとなる屋上テラスと公開空地を計画

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

重要度係数1.25
耐用年数の高い材料の選定
非常用発電機を設置し停電時に電力を供給する

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

BEMS



CASBEE横浜2022年版v.1.1
(仮称)新横浜新築計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
				Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境										3.4
1 音環境				3.6	0.15	-	-			3.6
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	-			-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-			-
1	開口部遮音性能			5.0	0.60	3.0	-			-
2	界壁遮音性能			3.0	0.40	3.0	-			-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-			-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-			-
1.3 吸音				4.0	0.20	3.0	-			-
2 温熱環境				3.1	0.35	-	-			3.1
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-			-
1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	-			-
2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	-			-
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.37	-	-			-
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-			-
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-			-
3 光・視環境				3.2	0.25	-	-			3.2
3.1 昼光利用				1.8	0.31	-	-			-
1	昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	0.59	3.0	-			-
2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	-			-
3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.41	3.0	-			-
3.2 グレア対策				3.0	0.29	-	-			-
1	昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	3.0	-			-
3.3 照度				4.0	0.15	3.0	-			-
3.4 照明制御				5.0	0.24	3.0	-			-
4 空気環境				3.9	0.25	-	-			3.9
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-			-
1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	1.00	3.0	-			-
4.2 換気				3.3	0.30	-	-			-
1	換気量	快適・働きやすさ	⑪空気環境	4.0	0.34	3.0	-			-
2	自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	3.0	-			-
3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.34	3.0	-			-
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-			-
1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気環境	1.0	0.50	-	-			-
2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.50	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.2
1 機能性				2.7	0.40	-	-			2.7
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-			-
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	3.0	-			-
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.33	3.0	-			-
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.35	-	-			-
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30	-	-			-
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.34	3.0	-			-
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.34	3.0	-			-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-			-
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-			-
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				3.4	0.30	-	-			3.4
2.1 耐震・免震				3.8	0.50	-	-			-
1	耐震性	防災	⑮耐震・免震	4.0	0.80	-	-			-
2	免震・制振性能	防災	⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-			-
1	躯体材料の耐用年数	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-			-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-			-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-			-
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3	電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				3.6	0.30	-	-			3.6
3.1 空間のゆとり				3.4	0.30	-	-			-
1	階高のゆとり			5.0	0.60	3.0	-			-
2	空間の形状・自由さ			1.0	0.40	3.0	-			-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	3.0	-			-
3.3 設備の更新性				2.8	0.40	-	-			-
1	空調配管の更新性			2.0	0.20	-	-			-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-			-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-			-
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-			-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.1
(仮称)新横浜新築計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-			2.5
1		生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-			2.0
2		まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-			3.0
3		地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-			2.5
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			4.1
1		建物外皮の熱負荷抑制		3.1	0.20	-	-			3.1
2		自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-			3.0
3		設備システムの高効率化		5.0	0.50	-	-			5.0
4		効率的運用		3.5	0.20	-	-			3.5
		集合住宅以外の評価		3.5	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		4.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.4
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-			3.4
1.1		節水		4.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.60	-	-			3.7
2.1		材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		5.0	0.20	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.20	-	-			2.7
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		2.6	0.70	-	-			-
	1	消火剤		4.0	0.33	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		1.0	0.33	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.0
1 地球温暖化への配慮				4.2	0.33	-	-			4.2
2 地域環境への配慮				1.9	0.33	-	-			1.9
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		1.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-			3.0
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	0.33	-	-			-
	2	振動		3.0	0.33	-	-			-
	3	悪臭		3.0	0.33	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3		光害の抑制		3.0	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目				-	-	-	-			-
<事務用途>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ		⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-			-
<住宅用途>				-	-	-	-			-
健康と安心				-	-	-	-			-
1		化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-			-
2		適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-			-
3		結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-			-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-			-